



LDAP との統合

この章は、次の項で構成されています。

- [概要 \(1 ページ\)](#)
- [スパム隔離と連携させるための LDAP の設定 \(2 ページ\)](#)
- [LDAP サーバ プロファイルの作成 \(2 ページ\)](#)
- [LDAP クエリの設定 \(5 ページ\)](#)
- [ドメインベース クエリ \(10 ページ\)](#)
- [チェーンクエリ \(12 ページ\)](#)
- [AsyncOS を複数の LDAP サーバと連携させるための設定 \(13 ページ\)](#)
- [LDAP を使用した管理ユーザの外部認証の設定 \(16 ページ\)](#)

概要

企業の LDAP ディレクトリ（例：Microsoft Active Directory、SunONE Directory Server、OpenLDAP ディレクトリなど）のエンドユーザーのパスワードおよび電子メールエイリアスを管理する場合、LDAP ディレクトリを使用して次のユーザーを認証することができます。

- スパム隔離にアクセスするエンドユーザーおよび管理ユーザー。

ユーザーがスパム隔離の Web UI にログインする場合、LDAP サーバーはログイン名とパスワードを検証し、AsyncOS は対応する電子メールエイリアスのリストを取得します。そのユーザーの電子メールエイリアスのいずれかに送信された隔離メッセージは、アプリケーションが書き換えない限りスパム隔離で表示できます。

[スパム隔離と連携させるための LDAP の設定 \(2 ページ\)](#) を参照してください。

- 外部認証が有効で、設定されている場合に、Cisco Secure Email and Web Manager アプリケーションにサインインする管理ユーザー。

[LDAP を使用した管理ユーザの外部認証の設定 \(16 ページ\)](#) を参照してください。

スパム隔離と連携させるための LDAP の設定

Cisco コンテンツ セキュリティ アプライアンスを LDAP ディレクトリと連携させるには、以下の手順に従って、受け入れ、ルーティング、エイリアシング、およびマスカレードを設定する必要があります。

ステップ 1 LDAP サーバ プロファイルを設定します。

サーバ プロファイルの内容は、AsyncOS から LDAP サーバに接続するための、次のような情報です。

- サーバ名およびポート
- ベース DN (Base DN)
- サーバをバインディングするための認証要件

サーバ プロファイルの設定方法の詳細については、[LDAP サーバ プロファイルの作成 \(2 ページ\)](#) を参照してください。

LDAP サーバ プロファイルを作成するときに、AsyncOS からの接続先となる LDAP サーバを複数設定できます。詳細については、[AsyncOS を複数の LDAP サーバと連携させるための設定 \(13 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 2 LDAP クエリを設定します。

LDAP サーバ プロファイル用に生成されたデフォルトのスパム隔離クエリを使用するか、または実際に使用する LDAP の実装とスキーマに合わせて自分のクエリを作成することができます。次に、スパム通知、および隔離へのエンドユーザ アクセス検証に使用するアクティブ クエリを指定します。

クエリの詳細については、[LDAP クエリの設定 \(5 ページ\)](#) を参照してください。


ステップ 3 スпам隔離に対して、LDAP エンドユーザ アクセスおよびスパム通知を有効にします。

スパム隔離への LDAP エンドユーザ アクセスを有効にして、エンドユーザが隔離内のメッセージを表示および管理できるようにします。ユーザが複数の通知を受信しないように、スパム通知のエイリアス統合をイネーブルにすることもできます。

詳細については、[中央集中型スパム隔離の設定](#)を参照してください。

LDAP サーバ プロファイルの作成

LDAP ディレクトリを使用するように AsyncOS を設定するには、LDAP サーバに関する情報を格納する LDAP サーバ プロファイルを作成します。

- ステップ 1** (新しい Web インターフェイスのみ) セキュリティ管理アプライアンスで  をクリックして、レガシー Web インターフェイスをロードします。
- ステップ 2** [管理アプライアンス (Management Appliance)] > [システム管理 (System Administration)] > [LDAP] を選択します。
- ステップ 3** [LDAPサーバプロファイルを追加 (Add LDAP Server Profile)] をクリックします。
- ステップ 4** [LDAPサーバプロファイル名 (LDAP Server Profile Name)] テキスト フィールドにサーバ プロファイルの名前を入力します。
- ステップ 5** [ホスト名 (Host Name(s))] テキスト フィールドに、LDAP サーバのホスト名を入力します。
- 複数のホスト名を入力すると、LDAP サーバのフェールオーバーやロード バランシングができるようになります。複数のエントリを指定する場合は、カンマで区切ります。詳細については、[AsyncOS を複数の LDAP サーバと連携させるための設定 \(13 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 6** 認証方法を選択します。匿名認証を使用することも、ユーザ名とパスワードを指定することもできます。
- (注) レポート上のクライアント IP アドレスではなくクライアント ユーザ ID を表示するには、LDAP 認証を設定する必要があります。LDAP 認証を使用しない場合、システムでは IP アドレスによるユーザの参照のみができます。[パスワードを使用 (Use Password)] オプション ボタンを選択して、ユーザ名とパスワードを入力します。[ユーザメール概要 (User Mail Summary)] ページにユーザ名が表示されます。
- ステップ 7** LDAP サーバのタイプを、[Active Directory]、[OpenLDAP]、[不明またはそれ以外 (Unknown or Other)] から選択します。
- ステップ 8** ポート番号を入力します。
- デフォルト ポートは 3268 です。これは Active Directory のデフォルト ポートであり、複数サーバ環境のグローバル カタログへのアクセスが可能になります。
- ステップ 9** LDAP サーバのベース DN (識別名) を入力します。
- ユーザ名とパスワードを使用して認証する場合は、パスワードが格納されているエントリへの完全 DN がユーザ名に含まれている必要があります。たとえば、電子メールアドレスが joe@example.com というユーザがマーケティング グループのユーザだとします。このユーザのエントリは、次のようになります。
- ```
uid=joe, ou=marketing, dc=example dc=com
```
- (オプション - [LDAP グローバル設定 (LDAP Global Settings)] で [LDAP サーバ証明書 の検証 (Validate LDAP Server Certificate)] が有効な場合のみ) : サーバ証明書を検証するためにカスタム認証局をアップロードするかどうかを確認します。
  - 認証局を追加するには、CLI で `certconfig > CERTAUTHORITY` サブコマンドを使用します。(オプション - [LDAP グローバル設定 (LDAP Global Settings)] で [LDAP サーバ証明書 の検証 (Validate LDAP Server Certificate)] が有効で、[SSL 構成 (SSL Configuration)] の設定で FQDN 検証が有効になっている場合のみ) : サーバ証明書にある [Common Name (共通名)]、[SAN : DNS 名 (SAN: DNS Name)] フィールド、またはその両方が FQDN 形式かどうかを確認します。

- (オプション - [LDAP グローバル設定 (LDAP Global Settings)] で [LDAP サーバー証明書の検証 (Validate LDAP Server Certificate)] が有効な場合のみ) : サーバ証明書の [Common Name (共通名)] または [SAN : DNS 名 (SAN: DNS Name)] フィールドにサーバのホスト名が含まれているかどうかを確認します。[ホスト名 (Hostname)] フィールドに IP が設定されている場合は、Reverse DNS 名が使用されます。
- (オプション - [LDAP グローバル設定 (LDAP Global Settings)] ページで [LDAP サーバー証明書の検証 (Validate LDAP Server Certificate)] オプションが有効になっていて、[SSL 構成 (SSL Configuration)] の設定ページで X 509 検証が有効になっている場合のみ) : サーバ証明書の署名アルゴリズムを確認します。
- (オプション - [LDAP グローバル設定 (LDAP Global Settings)] ページで [LDAP サーバー証明書の検証 (Validate LDAP Server Certificate)] が有効になっている場合のみ) : サーバ証明書にある [共通名 (Common Name)] または [SAN : DNS 名 (SAN: DNS Name)] フィールドにサーバ名が存在するかどうかを確認します。
- (オプション - [LDAP グローバル設定 (LDAP Global Settings)] ページで [LDAP サーバー証明書の検証 (Validate LDAP Server Certificate)] が有効になっている場合のみ) : サーバ証明書のバージョンを確認します。

(注) バージョン 1 およびバージョン 3 のサーバ証明書のみが許可されます。

**ステップ 10** [詳細設定 (Advanced)] で、LDAP サーバとの通信に SSL を使用するかどうかを選択します。

**ステップ 11** キャッシュ存続可能時間を入力します。この値は、キャッシュを保持する時間の長さです。

**ステップ 12** 保持するキャッシュ エントリの最大数を入力します。

**ステップ 13** 同時接続の最大数を入力します。

ロードバランシングのために LDAP サーバ プロファイルを設定する場合、これらの接続はリストで指定された LDAP サーバ間で配分されます。たとえば、同時接続数を 10 と設定し、3 台のサーバを使用して接続のロードバランシングを行う場合は、AsynOS によってサーバへの接続が 10 ずつ作成され、接続の総数は 30 となります。詳細については、[ロードバランシング \(15 ページ\)](#) を参照してください。

(注) 同時接続の最大数には、LDAP クエリに使用される LDAP 接続が含まれます。ただし、スパム隔離の LDAP 認証を有効にした場合、アプライアンスはエンドユーザ隔離に対して 20 の追加接続を許可し、接続の総数は 30 となります。

**ステップ 14** サーバへの接続をテストするために、[テストサーバ (Test Server(s))] ボタンをクリックします。複数の LDAP サーバを指定した場合は、すべてのサーバのテストが実行されます。テストの結果が [接続ステータス (Connection Status)] フィールドに表示されます。詳細については、[LDAP サーバのテスト \(5 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 15** スпам隔離クエリを作成します。該当するチェックボックスをオンにして、フィールドに入力します。

ユーザがエンドユーザ隔離にログインするときにそのユーザを検証する、隔離エンドユーザ認証クエリを設定できます。エンドユーザが電子メールエイリアスごとに隔離通知を受け取らないように、エイリアス統合クエリを設定できます。これらのクエリを使用するには、[有効なクエリとして指定する (Designate as the active query)] チェックボックスをオンにします。詳細については、[LDAP クエリの設定 \(5 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 16** [クエリのテスト (Test Query)] ボタンをクリックして、スパム隔離クエリをテストします。

テストパラメータを入力して [テストの実行 (Run Test)] をクリックします。テストの結果が [接続ステータス (Connection Status)] フィールドに表示されます。クエリーの定義や属性に変更を加えた場合は、[更新 (Update)] をクリックします。

(注) 空パズフレーズでのバインドを許可するように LDAP サーバが設定されている場合は、パズフレーズフィールドが空でもクエリのテストは合格となります。

**ステップ 17** 変更を送信し、保存します。

Active Directory サーバ設定では、Windows 2000 で TLS 経由の認証が許可されません。これは、Active Directory の既知の問題です。Active Directory および Windows 2003 の TLS 認証は、動作します。

(注) サーバ設定の数は無制限ですが、サーバごとに、エンドユーザ認証クエリを 1 つとエイリアス統合クエリを 1 つだけ設定できます。

## LDAP サーバのテスト

[LDAP サーバプロファイルの追加/編集 (Add/Edit LDAP Server Profile)] ページの [テストサーバ (Test Server(s))] ボタン (または CLI の `ldapconfig` コマンドの `test` サブコマンド) を使用して、LDAP サーバへの接続をテストします。サーバポートへの接続に成功したか失敗したかを示すメッセージが表示されます。複数の LDAP サーバが設定されている場合は、各サーバのテストが実行されて、結果が個別に表示されます。

## LDAP クエリの設定

次のセクションで、スパム隔離クエリのタイプごとに、デフォルトのクエリ文字列と設定の詳細を示します。

- **スパム隔離へのエンドユーザ認証のクエリ**。詳細については、[スパム隔離へのエンドユーザ認証のクエリ \(7 ページ\)](#) を参照してください。
- **スパム隔離エイリアス統合クエリ**。詳細については、[スパム隔離のエイリアス統合クエリ \(8 ページ\)](#) を参照してください。

隔離でエンドユーザ アクセスまたはスパム通知の LDAP クエリを使用するには、[有効なクエリとして指定する (Designate as the active query)] チェックボックスをオンにします。隔離アクセスを制御するエンドユーザ認証クエリを 1 つと、スパム通知用のエイリアス統合クエリを 1 つ指定できます。既存のアクティブクエリはすべてディセーブルになります。セキュリティ管理アプライアンスで、[管理アプライアンス (Management Appliance)] > [システム管理 (System Administration)] > [LDAP] ページを選択します。アスタリスク (\*) がアクティブクエリの横に表示されます。

ドメインベースのクエリまたはチェーンクエリも、アクティブなエンドユーザアクセスクエリまたはスパム通知クエリとして指定できます。詳細については、[ドメインベースクエリ \(10 ページ\)](#) および [チェーンクエリ \(12 ページ\)](#) を参照してください。



(注) [LDAP] ページの [クエリのテスト (Test Query)] ボタン (または **ldaptest** コマンド) を使用して、クエリから返される結果が期待したとおりであることを確認します。

- [LDAP クエリの構文 \(6 ページ\)](#)
- [置換可能なトークン \(6 ページ\)](#)

## LDAP クエリの構文

LDAP パス内でスペースを使用できます。引用符で囲む必要はありません。CN と DC の構文では、大文字と小文字は区別されません。

Cn=First Last,oU=user,dc=domain,DC=COM

クエリに入力する変数名では、大文字と小文字が区別されます。また、正しく動作するためには、LDAP 実装と一致している必要があります。たとえば、プロンプトで **mailLocalAddress** と入力したときに実行されるクエリは、**maillocaladdress** と入力したときとは異なります。

## 置換可能なトークン

次のトークンを LDAP クエリ内で使用できます。

- {a} ユーザ名@ドメイン名
- {d} ドメイン
- {dn} 識別名
- {g} グループ名
- {u} ユーザ名
- {f} MAILFROM: アドレス



(注) {f} トークンを使用できるのは、受け入れクエリのみです。

たとえば、メールを受け入れるための Active Directory LDAP サーバに対するクエリは、**((mail={a})(proxyAddresses=smtp:{a}))** になります。



(注) 作成したクエリは、[LDAP] ページの [テスト (Test)] 機能 (または **ldapconfig** コマンドの **test** サブコマンド) を使用してテストすることを強く推奨します。期待したとおりの結果が返されることを確認してから、リスナーに対して LDAP 機能をイネーブルにしてください。詳細については、[LDAP クエリのテスト \(10 ページ\)](#) を参照してください。

## スパム隔離へのエンドユーザ認証のクエリ

エンドユーザ認証クエリとは、スパム隔離にログインするユーザを検証するためのクエリです。トークン {u} は、ユーザを示します（ユーザのログイン名を表します）。トークン {a} は、ユーザの電子メールアドレスを示します。LDAP クエリによって「SMTP:」が電子メールアドレスから除去されることはありません。ただし、AsyncOS はこの部分をアドレスから除去します。

サーバタイプに基づいて、次のデフォルトクエリ文字列がエンドユーザ認証クエリに使用されます。

- **Active Directory** : (sAMAccountName={u})
- **OpenLDAP** : (uid={u})
- **不明またはそれ以外 (Unknown or Other)** : (ブランク)

デフォルトでは、プライマリ メール属性は **mail** です。独自のクエリとメール属性を入力できます。クエリを CLI で作成するには、**ldapconfig** コマンドの **isqauth** サブコマンドを使用します。



(注) ユーザのログイン時に各自の電子メールアドレス全体を入力させる場合は、(mail=smtp:{a}) というクエリ文字列を使用します。

### Active Directory エンドユーザ認証の設定例

ここでは、Active Directory サーバとエンドユーザ認証クエリの設定の例を示します。この例では、Active Directory サーバーに対してパスワード認証を使用し、Active Directory サーバーに対するエンドユーザー認証にはデフォルトのクエリ文字列、メール属性は **mail** と **proxyAddresses** を使用しています。

表 1: LDAP サーバとスパム隔離へのエンドユーザ認証の設定例 : **Active Directory**

|                      |                                                         |
|----------------------|---------------------------------------------------------|
| 認証方式                 | パスワードを使用（検索用にバインドするための低特権のユーザーを作成するか、匿名検索を設定する必要があります。） |
| サーバタイプ (Server Type) | Active Directory                                        |
| ポート                  | 3268                                                    |
| ベース DN (Base DN)     | (ブランク)                                                  |
| 接続プロトコル              | (ブランク)                                                  |
| クエリ文字列               | (sAMAccountName={u})                                    |
| メール属性                | mail,proxyAddresses                                     |

## OpenLDAP エンドユーザ認証の設定の例

ここでは、OpenLDAP サーバとエンドユーザ認証クエリの設定の例を示します。この例では、OpenLDAP サーバの匿名認証、OpenLDAP サーバのエンドユーザ認証用のデフォルトクエリ文字列、mail および mailLocalAddress メール属性を使用します。

表 2: LDAP サーバとスパム隔離へのエンドユーザ認証の設定例: OpenLDAP

| 認証方式                 | 匿名 (Anonymous)                               |
|----------------------|----------------------------------------------|
| サーバタイプ (Server Type) | OpenLDAP                                     |
| ポート                  | 389                                          |
| ベース DN (Base DN)     | (ブランク) (古いスキーマでは具体的なベース DN の使用が要求されることがあります) |
| 接続プロトコル              | (ブランク)                                       |
| クエリ文字列               | (uid={u})                                    |
| メール属性                | mail,mailLocalAddress                        |

## スパム隔離のエイリアス統合クエリ

スパム通知を使用する場合は、スパム隔離のエイリアス統合クエリを使用して電子メールエイリアスを1つにまとめると、受信者がエイリアスごとに隔離通知を受け取ることはなくなります。たとえば、ある受信者がメールアドレス john@example.com、jsmith@example.com、および john.smith@example.com のメールを受け取るとします。エイリアス統合を使用すると、受信者が受け取るスパム通知は1通だけとなります。送信先は、このユーザのエイリアスすべてに送信されるメッセージのプライマリ電子メールアドレスとして選択されたアドレスです。

メッセージを統合してプライマリ電子メールアドレスに送信するには、受信者の代替電子メールエイリアスを検索するためのクエリを作成してから、受信者のプライマリ電子メールアドレスの属性を [メール属性 (Email Attribute)] フィールドに入力します。

Active Directory サーバの場合、デフォルトクエリ文字列 (実際の展開では異なることもあります) は `((proxyAddresses={a})(proxyAddresses=smtp:{a}))` で、デフォルトの電子メール属性は mail です。OpenLDAP サーバの場合は、デフォルトのクエリ文字列は `(mail={a})` で、デフォルトのメール属性は mail です。独自のクエリとメール属性を定義することもできます。属性が複数の場合は、カンマで区切ります。入力する電子メール属性が複数ある場合は、最初の電子メール属性として、変動する可能性のある値を複数持つ属性 (たとえば proxyAddresses) ではなく、値を1つだけ使用する一意の属性 (たとえば mail) を入力することを推奨します。

クエリを CLI で作成するには、ldapconfig コマンドの isqalias サブコマンドを使用します。

- [Active Directory エイリアス統合の設定例 \(9 ページ\)](#)
- [OpenLDAP エイリアス統合の設定例 \(9 ページ\)](#)



## Active Directory エイリアス統合の設定例

ここでは、Active Directory サーバとエイリアス統合クエリの設定の例を示します。この例では、Active Directory サーバに対して匿名認証を使用し、Active Directory サーバに対するエイリアス統合用のクエリ文字列を指定し、メール属性は `mail` を使用します。

表 3: LDAP サーバとスパム隔離エイリアス統合の設定例: *Active Directory*

| 認証方式                 | 匿名 (Anonymous)               |
|----------------------|------------------------------|
| サーバタイプ (Server Type) | Active Directory             |
| ポート                  | 3268                         |
| ベース DN (Base DN)     | (ブランク)                       |
| 接続プロトコル              | SSL を使用する (Use SSL)          |
| クエリ文字列               | ( (mail={a})(mail=smtp:{a})) |
| メール属性                | メールアドレス                      |

## OpenLDAP エイリアス統合の設定例

ここでは、OpenLDAP サーバとエイリアス統合クエリの設定の例を示します。この例では、OpenLDAP サーバに対して匿名認証を使用し、OpenLDAP サーバに対するエイリアス統合用のクエリ文字列を指定し、メール属性は `mail` を使用します。

表 4: LDAP サーバとスパム隔離エイリアス統合の設定例: *OpenLDAP*

| 認証方式                 | 匿名 (Anonymous)                               |
|----------------------|----------------------------------------------|
| サーバタイプ (Server Type) | OpenLDAP                                     |
| ポート                  | 389                                          |
| ベース DN (Base DN)     | (ブランク) (古いスキーマでは具体的なベース DN の使用が要求されることがあります) |
| 接続プロトコル              | SSL を使用する (Use SSL)                          |
| クエリ文字列               | (mail={a}))                                  |
| メール属性                | メールアドレス                                      |

## LDAP クエリのテスト

[LDAPサーバプロファイルの追加/編集 (Add/Edit LDAP Server Profile)] ページの [クエリのテスト (Test Query)] ボタン (または CLI の `ldaptest` コマンド) を使用して、クエリをテストします。AsyncOS に、クエリ接続テストの各ステージの詳細が表示されます。たとえば、最初のステージの SMTP 認証に成功したか失敗したか、バインド照合の返された結果が `true` か `false` か、などです。

`ldaptest` コマンドを、次の例のようにバッチ コマンドとして使用できます。

```
ldaptest LDAP.isqalias foo@cisco.com
```

クエリに入力する変数名では、大文字と小文字が区別されます。また、正しく動作するためには、LDAP 実装と一致している必要があります。たとえば、メール属性に `mailLocalAddress` と入力すると、`maillocaladdress` と入力する場合とは異なるクエリを実行します。

クエリをテストするには、テストパラメータを入力して、[テストの実行 (Run Test)] をクリックします。[テスト接続 (Test Connection)] フィールドに結果が表示されます。エンドユーザ認証クエリが成功した場合、「成功: アクション: 一致ポジティブ (Success: Action: match positive)」という結果が表示されます。エイリアス統合クエリの場合は、統合されたスパム通知用の電子メールアドレスと共に、「成功: アクション: エイリアス統合 (Success: Action: alias consolidation)」という結果が表示されます。クエリが失敗すると、一致する LDAP レコードが見つからない、一致したレコードにメール属性が含まれていないなど、失敗の原因が表示されます。複数の LDAP サーバを使用している場合、Cisco コンテンツセキュリティアプライアンスは、LDAP サーバごとにクエリをテストします。

## ドメインベース クエリ


ドメインベースクエリとは、LDAP クエリをタイプ別にグループ化し、ドメインに関連付けたものです。複数の別の LDAP サーバが異なるドメインに関連付けられているが、エンドユーザ隔離アクセスに対し、すべての LDAP サーバでクエリを実行する必要がある場合、ドメインベースクエリの使用を推奨します。たとえば、**Bigfish** という名前の会社が **Bigfish.com**、**Redfish.com**、および **Bluefish.com** というドメインを所持していて、それぞれのドメインに関連する従業員用に別の LDAP サーバを管理するとします。**Bigfish** は、ドメインベースクエリを使用して、3つのドメインすべての LDAP ディレクトリに対してエンドユーザを認証することができます。

ドメインベースクエリを使用してスパム隔離のエンドユーザアクセスまたは通知を制御するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1** ドメインベースクエリで使用する各ドメインについて LDAP サーバプロファイルを作成します。各サーバプロファイルでは、ドメインベースクエリで使用するクエリを設定します。詳細については、[LDAP サーバプロファイルの作成 \(2 ページ\)](#) を参照してください。
  - ステップ 2** ドメインベースクエリを作成します。ドメインベースクエリを作成するときに、各サーバプロファイルからクエリを選択し、ドメインベースクエリをスパム隔離のアクティブクエリとして指定します。クエリの作成方法の詳細については、[ドメインベースクエリの作成 \(11 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 3** スпам隔離に対して、エンドユーザアクセスおよびスパム通知を有効にします。詳細については、[Web ブラウザからのスパム隔離へのエンドユーザアクセスの設定](#)を参照してください。

## ドメインベース クエリの作成

**ステップ 1** (新しいWeb インターフェイスのみ) セキュリティ管理アプライアンスで  をクリックして、レガシー Web インターフェイスをロードします。

**ステップ 2** [管理アプライアンス (Management Appliance) ]>[システム管理 (System Administration) ]>[LDAP] を選択します。

**ステップ 3** [LDAP] ページで、[詳細設定 (Advanced) ] をクリックします。

**ステップ 4** ドメインベース クエリーの名前を入力します。

**ステップ 5** クエリー タイプを選択します。

(注) ドメインベースクエリを作成するときは、シングルクエリタイプを指定します。クエリのタイプを選択すると、該当するクエリが LDAP サーバプロファイルからクエリ フィールド ドロップダウンリストに含まれるようになります。

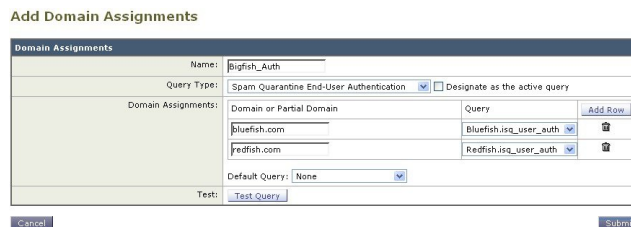
**ステップ 6** [ドメイン割り当て (Domain Assignments) ] フィールドに、ドメインを入力します。

**ステップ 7** このドメインに関連付けるクエリーを選択します。

**ステップ 8** 行を追加して、ドメインベース クエリのドメインごとにクエリを選択します。

**ステップ 9** どのクエリにも一致しないときに実行する、デフォルトのクエリを入力します。デフォルトのクエリを入力しない場合は、[なし (None) ] を選択します。

図 1: ドメインベース クエリの例



**ステップ 10** クエリをテストします。[クエリのテスト (Test Query) ] ボタンをクリックし、テストするユーザログインとパスワードまたはメールアドレスを [テストパラメータ (Test Parameters) ] のフィールドに入力します。結果が [接続ステータス (Connection Status) ] フィールドに表示されます。

**ステップ 11** スпам隔離でドメインベース クエリを使用するには、[有効なクエリとして指定する (Designate as the active query) ] チェックボックスをオンにします。

(注) ドメインベースクエリが、指定されたクエリタイプのアクティブ LDAP クエリになります。たとえば、ドメインベースクエリがエンドユーザ認証に使用されている場合は、スパム隔離のアクティブエンドユーザ認証クエリになります。

**ステップ 12** [送信 (Submit) ] をクリックし、[確定する (Commit) ] をクリックして変更を保存します。

- (注) 同じ設定をコマンドライン インターフェイスで行うには、コマンドラインプロンプトで、`ldapconfig` コマンドの `advanced` サブコマンドを入力します。

## チェーンクエリ

チェーンクエリは、AsyncOS が連続して実行する一連の LDAP クエリです。AsyncOS は LDAP サーバから肯定的なレスポンスが返されるまで、または最後のクエリで否定的なレスポンスが返されるか失敗するまで、シリーズ内の各クエリ、「チェーン」内の各クエリを実行します。チェーンクエリが役立つのは、LDAP ディレクトリ内のエントリにおいて、さまざまな属性に類似の（または同一の）値が格納されている場合です。たとえば、組織の各部門が、異なるタイプの LDAP ディレクトリを使用していることがあります。IT 部門が OpenLDAP を使用し、営業部門が Active Directory を使用しているとします。クエリが両方のタイプの LDAP ディレクトリに対して実行されていることを確認するために、チェーンクエリを使用できます。


チェーンクエリを使用してスパム隔離のエンドユーザ アクセスまたは通知を制御するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** チェーンクエリで使用するクエリごとに1つずつ、LDAP サーバプロファイルを作成します。このサーバプロファイルのそれぞれについて、チェーンクエリに使用するクエリを設定します。詳細については、[LDAP サーバプロファイルの作成 \(2 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 2** チェーンクエリを作成し、スパム隔離のアクティブクエリとして指定します。詳細については、[チェーンクエリの作成 \(12 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 3** スпам隔離に対して、LDAP エンドユーザ アクセスおよびスパム通知を有効にします。スパム隔離の詳細については、「[中央集中型スパム隔離の設定](#)」を参照してください。

## チェーンクエリの作成



ヒント CLI から、`ldapconfig` コマンドの `advanced` サブコマンドも使用できます。

- ステップ 1** (新しいWeb インターフェイスのみ) セキュリティ管理アプライアンスで  をクリックして、レガシー Web インターフェイスをロードします。
- ステップ 2** [管理アプライアンス (Management Appliance)] > [システム管理 (System Administration)] > [LDAP] > [LDAPサーバ (LDAP Server)] を選択します。
- ステップ 3** [LDAPサーバプロファイル (LDAP Server Profiles)] ページの [詳細設定 (Advanced)] をクリックします。
- ステップ 4** [連鎖クエリを追加 (Add Chained Query)] をクリックします。

**ステップ 5** チェーン クエリの名前を入力します。

**ステップ 6** クエリのタイプを選択します。

チェーンクエリを作成するときは、そのコンポーネントのクエリすべてを同じクエリタイプにします。クエリのタイプを選択すると、該当するクエリが LDAP からクエリ フィールド ドロップダウン リストに表示されます。

**ステップ 7** チェーンの最初のクエリを選択します。

Cisco コンテンツ セキュリティ アプライアンスによって、ここで設定した順にクエリが実行されます。チェーンクエリに複数のクエリを追加する場合は、詳細なクエリの後に広範なクエリが続くように順序付けることを推奨します。

図 2: チェーンクエリの例

Add Chained Query

| Chained Query     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                        |       |  |   |                       |                                        |   |                       |                                        |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-------|--|---|-----------------------|----------------------------------------|---|-----------------------|----------------------------------------|
| Name:             | Chain_Query                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                        |       |  |   |                       |                                        |   |                       |                                        |
| Query Type:       | Spam Quarantine End-User Authentication <input type="checkbox"/> Designate as the active query                                                                                                                                                                                                                             |                                        |       |  |   |                       |                                        |   |                       |                                        |
| Order of Queries: | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Order</th> <th>Query</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Server1.isq_user_auth</td> <td><input type="button" value="Add Row"/></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Server2.isq_user_auth</td> <td><input type="button" value="Add Row"/></td> </tr> </tbody> </table> | Order                                  | Query |  | 1 | Server1.isq_user_auth | <input type="button" value="Add Row"/> | 2 | Server2.isq_user_auth | <input type="button" value="Add Row"/> |
| Order             | Query                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                        |       |  |   |                       |                                        |   |                       |                                        |
| 1                 | Server1.isq_user_auth                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <input type="button" value="Add Row"/> |       |  |   |                       |                                        |   |                       |                                        |
| 2                 | Server2.isq_user_auth                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <input type="button" value="Add Row"/> |       |  |   |                       |                                        |   |                       |                                        |
| Test:             | Test_Query                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                        |       |  |   |                       |                                        |   |                       |                                        |

**ステップ 8** クエリをテストします。[クエリのテスト (Test Query)] ボタンをクリックし、ユーザログインとパスワードまたはメールアドレスを [テストパラメータ (Test Parameters)] のフィールドに入力します。結果が [接続ステータス (Connection Status)] フィールドに表示されます。

**ステップ 9** スпам隔離でドメインクエリを使用するには、[有効なクエリとして指定する (Designate as the active query)] チェックボックスをオンにします。

(注) チェーンクエリが、指定されたクエリタイプのアクティブ LDAP クエリになります。たとえば、チェーンクエリがエンドユーザ認証に使用されている場合は、スパム隔離のアクティブエンドユーザ認証クエリになります。

**ステップ 10** 変更を送信し、保存します。

(注) 同じ設定をコマンドラインインターフェイスで行うには、コマンドラインプロンプトで、`ldapconfig` コマンドの `advanced` サブコマンドを入力します。

## AsyncOS を複数の LDAP サーバと連携させるための設定

LDAP サーバプロファイルを設定するときに、Cisco コンテンツ セキュリティ アプライアンスからの接続先となる複数の LDAP サーバをリストとして設定できます。複数の LDAP サーバを使用するには、格納されている情報、構造、使用する認証情報を同一にする必要があります。レコードを統合できる製品がサードパーティから提供されています。

次の機能を使用する場合は、冗長 LDAP サーバに接続するように Cisco コンテンツ セキュリティ アプライアンスを設定します。

- **フェールオーバー**。Cisco コンテンツセキュリティアプライアンスが LDAP サーバに接続できない場合、リストで次に指定されているサーバに接続します。
- **ロードバランシング**。Cisco コンテンツセキュリティアプライアンスは、LDAP クエリを実行するときに、リストで指定されている LDAP サーバの間で接続を分散します。

冗長 LDAP サーバを設定するには、[管理アプライアンス (Management Appliance)] > [システム管理 (System Administration)] > [LDAP] ページまたは CLI の `ldapconfig` コマンドを使用します。

## サーバとクエリのテスト

[LDAP サーバー プロファイルを追加 (または編集) (Add (or Edit) LDAP Server Profile)] ページの [テストサーバー (Test Server(s))] ボタン (または CLI の `test` サブコマンド) を使用して、LDAP サーバーへの接続をテストします。複数の LDAP サーバを使用する場合は、各サーバのテストが実行されて、各サーバの結果が個別に表示されます。各 LDAP サーバでのクエリのテストも実行されて、結果が個別に表示されます。

## フェールオーバー

LDAP サーバーで確実にクエリを解決できるようにするには、フェールオーバー用に LDAP プロファイルを設定できます。LDAP サーバーへの接続が失敗するか、またはクエリからエラーが返される場合にそうすることが適切であれば、アプライアンスはリストに指定されている次の LDAP サーバーに対してクエリを試行します。

Cisco コンテンツセキュリティアプライアンスは、LDAP サーバー リスト内の最初のサーバーへの接続を、所定の時間が経過するまで試行します。アプライアンスがリスト内の最初の LDAP サーバーに接続できない場合、またはクエリからエラーが返される場合、リスト内の次の LDAP サーバーへの接続が試行されます。デフォルトでは、アプライアンスは常にリスト内の最初のサーバーへの接続を試行し、それ以降の各サーバーへの接続を、リスト内で指定されている順に試行します。Cisco コンテンツセキュリティアプライアンスが確実にプライマリ LDAP サーバーにデフォルトで接続できるようにするには、そのサーバーが LDAP サーバー リストの先頭に入力されていることを確認してください。



- (注) 指定された LDAP サーバを問い合わせる試行のみがフェールオーバーします。指定された LDAP サーバに関連付けられた参照サーバまたは継続サーバを問い合わせる試行はフェールオーバーしません。

Cisco コンテンツセキュリティアプライアンスが 2 番目の、または後続の LDAP サーバーに接続する場合、そのサーバーへの接続は所定の時間が経過するまで維持されます。この時間が経過すると、アプライアンスはリスト内の最初のサーバーに対して再接続を試行します。

## LDAP フェールオーバーのための Cisco コンテンツ セキュリティ アプライアンスの設定


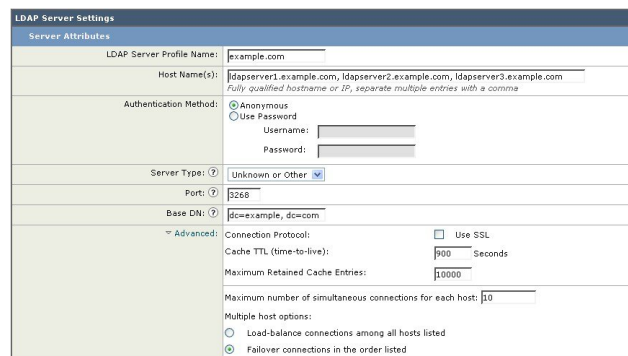
- ステップ 1** (新しい Web インターフェイスのみ) セキュリティ管理アプライアンスで  をクリックして、レガシー Web インターフェイスをロードします。
- ステップ 2** [管理アプライアンス (Management Appliance)] > [システム管理 (System Administration)] > [LDAP] を選択します。
- ステップ 3** 編集する LDAP サーバー プロファイルを選択します。
- 次の例で、LDAP サーバー名は `example.com` です。

図 3: LDAP フェールオーバー コンフィギュレーションの例



| LDAP Server Settings                                                      |                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Server Attributes                                                         |                                                                                                                                                           |
| LDAP Server Profile Name:                                                 | example.com                                                                                                                                               |
| Host Name(s):                                                             | ldapsrv1.example.com, ldapsrv2.example.com, ldapsrv3.example.com<br><small>Fully qualified hostname or IP, separate multiple entries with a comma</small> |
| Authentication Method:                                                    | <input checked="" type="radio"/> Anonymous<br><input type="radio"/> Use Password<br>Username: <input type="text"/><br>Password: <input type="password"/>  |
| Server Type:                                                              | Unknown or Other                                                                                                                                          |
| Port:                                                                     | 3268                                                                                                                                                      |
| Base DN:                                                                  | dc=example, dc=com                                                                                                                                        |
| Advanced:                                                                 |                                                                                                                                                           |
| Connection Protocol:                                                      | <input type="checkbox"/> Use SSL                                                                                                                          |
| Cache TTL (time-to-live):                                                 | 900 Seconds                                                                                                                                               |
| Maximum Retained Cache Entries:                                           | 10000                                                                                                                                                     |
| Maximum number of simultaneous connections for each host:                 | 10                                                                                                                                                        |
| Multiple host options:                                                    |                                                                                                                                                           |
| <input type="radio"/> Load-balance connections among all hosts listed     |                                                                                                                                                           |
| <input checked="" type="radio"/> Failover connections in the order listed |                                                                                                                                                           |

- ステップ 4** [ホスト名 (Hostname)] テキスト フィールドに、LDAP サーバー (`ldapsrv.example.com` など) を入力します。
- ステップ 5** [各ホストの最大同時接続数 (Maximum number of simultaneous connections for each host)] テキスト フィールドに、最大接続数を入力します。
- この例では、最大接続数が **10** です。
- ステップ 6** [一覧されている順序での接続のフェールオーバー (Failover connections in the order list)] の横にあるオプション ボタンをクリックします。
- ステップ 7** その他の LDAP オプションを必要に応じて設定します。
- ステップ 8** 変更を送信し、保存します。

## ロード バランシング


LDAP 接続をグループ内の LDAP サーバ間に分散させるには、ロード バランシングのための LDAP プロファイルを設定します。

ロード バランシングを使用した場合、Cisco コンテンツ セキュリティ アプライアンスからの接続はリスト内の LDAP サーバに分散されます。接続に失敗したときやタイムアウトしたときは、アプライアンスは使用可能な LDAP サーバを判断して、使用可能なサーバに再接続しま

す。アプライアンスは、管理者が設定した最大同時接続数に基づいて、同時に確立する接続の数を決定します。

リストで指定された LDAP サーバの 1 つが応答しなくなった場合は、アプライアンスからの接続の負荷は残りの LDAP サーバに分散されます。

## ロードバランシングのための Cisco コンテンツ セキュリティ アプライアンスの設定

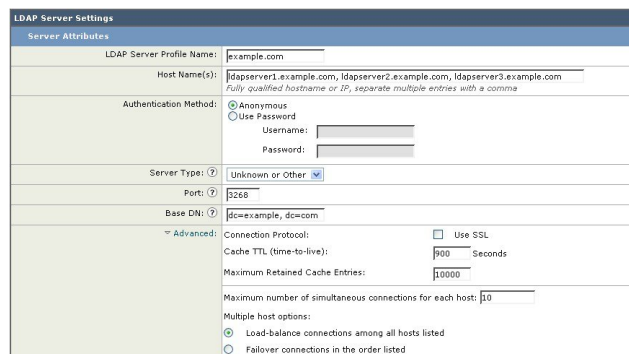
**ステップ 1** (新しい Web インターフェイスのみ) セキュリティ管理アプライアンスで  をクリックして、レガシー Web インターフェイスをロードします。

**ステップ 2** [管理アプライアンス (Management Appliance)] > [システム管理 (System Administration)] > [LDAP] を選択します。

**ステップ 3** 編集する LDAP サーバー プロファイルを選択します。

次の例で、LDAP サーバー名は `example.com` です。

図 4: ロードバランシングの設定例



**ステップ 4** [ホスト名 (Hostname)] テキストフィールドに、LDAP サーバー (`ldapsrv1.example.com` など) を入力します。

**ステップ 5** [各ホストの最大同時接続数 (Maximum number of simultaneous connections for each host)] テキストフィールドに、最大接続数を入力します。

この例では、最大接続数が **10** です。

**ステップ 6** [すべてのホスト間での負荷分散接続 (Load balance connections among all hosts)] の横にあるオプションボタンをクリックします。

**ステップ 7** その他の LDAP オプションを必要に応じて設定します。

**ステップ 8** 変更を送信し、保存します。

## LDAP を使用した管理ユーザの外部認証の設定

ネットワーク上の LDAP ディレクトリを使用して管理ユーザを認証するように Cisco コンテンツ セキュリティ アプライアンスを設定できます。このように設定すると、ユーザが各自の



LDAP ユーザ名とパスワードを使用して、アプライアンスにログインできるようになります。

- ステップ 1 LDAP サーバ プロファイルを設定します。** [LDAP サーバ プロファイルの作成 \(2 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 2 ユーザ アカウントを見つけるためのクエリを作成します。** LDAP サーバ プロファイルの、[外部認証クエリ (External Authentication Queries)] セクションで、クエリを作成して LDAP ディレクトリ内のユーザ アカウントを検索します。 [管理ユーザの認証のためのユーザアカウントクエリ \(17 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 3 グループ メンバーシップクエリを作成します。** あるユーザがディレクトリ グループのメンバーであるかどうかを判断するクエリを作成し、あるグループのすべてのメンバーを検索する別のクエリを作成します。詳細については、 [管理ユーザの認証のためのグループ メンバーシップクエリ \(18 ページ\)](#) およびご使用の E メール セキュリティ アプライアンスのマニュアルまたはオンライン ヘルプを参照してください。
- (注) そのページの [外部認証クエリ (External Authentication Queries)] セクションにある [テストクエリ (Test Queries)] ボタン (または `ldaptest` コマンド) を使用して、クエリから返される結果が期待したとおりであることを確認します。関連情報については、 [LDAP クエリのテスト \(10 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 4 LDAP サーバを使用するように外部認証をセットアップします。** この LDAP サーバをユーザ認証に使用するようにアプライアンスを設定し、ユーザ ロールを LDAP ディレクトリ内のグループに割り当てます。詳細については、 [管理ユーザの外部認証のイネーブル化 \(20 ページ\)](#) および E メール セキュリティ アプライアンスのマニュアルまたはオンライン ヘルプの「Adding Users」を参照してください。

## 管理ユーザの認証のためのユーザアカウントクエリ

外部ユーザを認証するために、AsyncOS はクエリを使用してそのユーザのレコードを LDAP ディレクトリ内で検索し、ユーザのフルネームが格納されている属性を見つけます。選択したサーバタイプに応じて、AsyncOS によってデフォルトクエリとデフォルト属性が入力されます。アカウントが失効しているユーザは拒否するようにアプライアンスを設定することもできます。それには、RFC 2307 で規定されている属性が LDAP ユーザ レコード内で定義されている必要があります (`shadowLastChange`、`shadowMax`、および `shadowExpire`)。ユーザレコードが存在するドメインレベルのベース DN が必須です。

次の表に、AsyncOS がユーザアカウントを Active Directory サーバ上で検索するときに使用されるデフォルトのクエリ文字列とユーザのフルネーム属性を示します。

表 5: Active Directory サーバのデフォルト クエリ文字列

| サーバタイプ (Server Type) | Active Directory                                           |
|----------------------|------------------------------------------------------------|
| ベース DN (Base DN)     | (ブランク) (ユーザレコードを見つけるには具体的なベース DN を使用する必要があります)             |
| クエリ文字列               | <code>(&amp;(objectClass=user)(sAMAccountName={u}))</code> |

|                                                                 |                  |
|-----------------------------------------------------------------|------------------|
| サーバタイプ (Server Type)                                            | Active Directory |
| ユーザのフルネームが格納されている属性 (Attribute containing the user's full name) | displayName      |

次の表に、AsyncOS がユーザアカウントを OpenLDAP サーバ上で検索するときには使用されるデフォルトのクエリ文字列とユーザのフルネーム属性を示します。

表 6: Open LDAP サーバのデフォルトクエリ文字列

|                                                                 |                                                |
|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| サーバタイプ (Server Type)                                            | OpenLDAP                                       |
| ベース DN (Base DN)                                                | (ブランク) (ユーザレコードを見つけるには具体的なベース DN を使用する必要があります) |
| クエリ文字列                                                          | (&(objectClass=posixAccount)(uid={u}))         |
| ユーザのフルネームが格納されている属性 (Attribute containing the user's full name) | gecos                                          |

## 管理ユーザの認証のためのグループメンバーシップクエリ

LDAP グループをアプライアンスにアクセスするためのユーザロールと関連付けることができます。

AsyncOS は、あるユーザがディレクトリグループのメンバーであるかどうかを判断するクエリや、あるグループのすべてのメンバーを検索する別のクエリを使用することもできます。ディレクトリグループメンバーシップ内のメンバーシップによって、そのユーザのシステム内のアクセス許可が決まります。GUI の [管理アプライアンス (Management Appliance)] > [システム管理 (System Administration)] > [ユーザ (Users)] ページ (または CLI の userconfig) で外部認証を有効にするときに、ユーザロールを LDAP ディレクトリ内のグループに割り当てます。ユーザロールによって、そのユーザがシステム内で持つアクセス許可が決まります。外部認証されたユーザの場合は、ロールは個々のユーザではなくディレクトリグループに割り当てられます。たとえば、IT というディレクトリグループ内のユーザに Administrator ロールを割り当て、Support というディレクトリグループのユーザに Help Desk User ロールを割り当てます。

1 人のユーザが複数の LDAP グループに属しており、それぞれユーザロールが異なる場合は、最も限定的なロールのアクセス許可が AsyncOS によってそのユーザに付与されます。たとえば、ユーザが Operator 権限を持つグループと Help Desk User 権限を持つグループに属する場合、AsyncOS はユーザに Help Desk User ロールの権限を割り当てます。

グループメンバーシップを問い合わせるための LDAP プロファイルを設定するときに、グループレコードが格納されているディレクトリレベルのベース DN、グループメンバーのユーザ名が格納されている属性、およびグループ名が格納されている属性を入力します。LDAP サーバプロファイルに対して選択されたサーバタイプに基づいて、ユーザ名とグループ名の属性のデフォルト値とデフォルトクエリ文字列が AsyncOS によって入力されます。



- (注) Active Directory サーバの場合は、ユーザが特定のグループのメンバーかどうかを判断するためのデフォルトのクエリ文字列は (&(objectClass=group)(member={u})) です。ただし、使用する LDAP スキーマにおいて、「memberof」のリストでユーザ名ではなく識別名が使用されている場合は、{dn} を {u} の代わりに使用できます。

次の表に、AsyncOS が Active Directory サーバ上でグループメンバーシップ情報を検索するとき使用されるデフォルトのクエリ文字列と属性を示します。

表 7: Active Directory サーバのデフォルトクエリ文字列および属性

| クエリ文字列                                    | Active Directory                                                                                                          |
|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ベース DN (Base DN)                          | (ブランク) (グループレコードを見つけるには具体的なベース DN を使用する必要があります)                                                                           |
| ユーザが特定のグループのメンバーかどうかを判断するためのクエリ文字列        | (&(objectClass=group)(member={u}))<br><br>(注) 使用する LDAP スキーマにおいてメンバーのリストの中でユーザ名ではなく識別名が使用されている場合は、{u} の代わりに {dn} を使用できます。 |
| グループのすべてのメンバーを判別するクエリ文字列                  | (&(objectClass=group)(cn={g}))                                                                                            |
| 各メンバーのユーザ名 (またはそのユーザのレコードの DN) が格納されている属性 | member                                                                                                                    |
| グループ名が格納されている属性                           | cn                                                                                                                        |

次の表に、AsyncOS が OpenLDAP サーバ上でグループメンバーシップ情報を検索するとき使用されるデフォルトのクエリ文字列と属性を示します。


表 8: Open LDAP サーバのデフォルトクエリ文字列および属性

| クエリ文字列                                    | OpenLDAP                                        |
|-------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| ベース DN (Base DN)                          | (ブランク) (グループレコードを見つけるには具体的なベース DN を使用する必要があります) |
| ユーザが特定のグループのメンバーかどうかを判断するためのクエリ文字列        | (&(objectClass=posixGroup)(memberUid={u}))      |
| グループのすべてのメンバーを判別するクエリ文字列                  | (&(objectClass=posixGroup)(cn={g}))             |
| 各メンバーのユーザ名 (またはそのユーザのレコードの DN) が格納されている属性 | memberUid                                       |

|                 |          |
|-----------------|----------|
| クエリ文字列          | OpenLDAP |
| グループ名が格納されている属性 | cn       |

## 管理ユーザの外部認証のイネーブル化

LDAP サーバプロファイルおよびクエリを設定した後で、LDAP を使用する外部認証をイネーブルにすることができます。

- 
- ステップ 1** (新しい Web インターフェイスのみ) セキュリティ管理アプライアンスで  をクリックして、レガシー Web インターフェイスをロードします。
- ステップ 2** [管理アプライアンス (Management Appliance)] > [システム管理 (System Administration)] > [ユーザ (Users)] ページを選択します。
- ステップ 3** [有効 (Enable)] をクリックします。
- ステップ 4** [外部認証を有効にする (Enable External Authentication)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** 認証タイプとして [LDAP] を選択します。
- ステップ 6** ユーザを認証する LDAP 外部認証クエリーを選択します。
- ステップ 7** タイムアウトするまでアプライアンスがサーバからの応答を待つ時間を秒単位で入力します。
- ステップ 8** アプライアンスで認証する LDAP ディレクトリからのグループ名を入力し、グループのユーザに対するロールを選択します。
- ステップ 9** また、[行の追加 (Add Row)] をクリックして別のディレクトリ グループを追加することもできます。アプライアンスが認証する各ディレクトリ グループに対してステップ 7 とステップ 8 を繰り返します。
- ステップ 10** 変更を送信し、保存します。
-

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。